

第1回委員会で共有した子どもの現状や課題について

1 各委員から出た意見

(1)検討用基礎資料から

- 【p5】子どもから見た場の満足度では「近所のお祭りや商店街のイベント」の満足度が比較的高かったが、町会活動の中でお祭りを行っており、子どももたくさん来て楽しんでいる。町会では、大人も子どもも楽しめる行事や活動を行っているので、地域も巻き込んで様々な取り組みをやっていけると良い。
- 【p38、39】「自分のことが好きだ」の問いについて「あまり思わない・思わない」と答えた子どもが小学生では3割程度、中学生では4割程度おり、気になる。

(2)各委員が感じていることから

普及啓発に関すること

- リーフレットやチラシを配布されても見ない子どもや保護者もいるので、もっと子どもが知る機会が増えると良い。
- リーフレットを配布しても見ない子どもや保護者もいる。子どもはタブレットをよく利用している。タブレットやアプリを活用して子どもが関心を持つような仕組みを作り、子どもの権利を伝えることができると良い。
- 子どもへの啓発も重要だが、大人自身が子どもの権利を学ぶ機会も必要である。

意見聴取・意見表明に関すること

- 条例制定までの過程で取りこぼしてしまった子どもの意見や、それを踏まえた上でさらに声を聴いた方が良くと思われるところについて、意見を聴きたい。
- 就学前の子どもも十分に意見や思いを持っている。
- 不登校、施設入所、乳幼児に関しては意見聴取ができていない。
- 子どもはそのときに来た大人には心を開かない。関係を作っている方に協力してもらい、意見を聴けると良い。
- 本音を聴くにはどういう場所づくりをすべきかという観点で、どこが適切な場所かを決めることができると良いのではないか。
- 学校は、先生を信頼している子どももいれば、そうではない子どももいるため、先生を信頼している子どもの声は届くが、そこからは見えない声もあるのではないか。
- 学校などでディスカッションできる場があったとしても、積極的に発言できない子どもはそこで意見を表明することができない。アンケートであれば答えられる子どもも

いるかもしれない。

- 積極的に発言できる子ども、そうでない子ども、先生になら話せる子ども、SC や養護教諭になら話せる子どもなど、様々いるので、選択肢を増やした方が良い。
- 子どもの本音を引き出すためには、大人が子どもの声を聴くことについて理解を深めることも重要である。(ロールプレイの実践など)
- 子ども自身が意見を伝えるトレーニングを行うことも大事である。
- 子どもの権利条約でいう意見の表明・尊重とは、opinion ではなく views(思い描いていること)である。
- 条例ができたことをまずは子ども達に報告する必要がある。子どもの権利救済委員は条例の広報の役割も担っているので、足並みを揃えてできると良い。
- 意見を聴く様々な場を大人がつくる必要がある。
- 区内在住の子ども、区内在学の子どもの、それぞれの視点がある。
- ハイティーン会議と連携し、メンバーに話を聴けると良い。

居場所に関すること

- 子どもにとって、家庭と学校以外の居場所があるかないかで子どもの自己肯定感を含め、成長に関わってくると感じている。
- 子どもは、場面が違えば良さを発揮できるということがある。それぞれの場所で見せる顔は違うので、様々な居場所があって選択できると良い。中野区ではいろんな区民の方がいろんな居場所を運営しており、規模もやり方も全然違うからこそ好きなところを選べると思うので、引き続き情報発信をしていきたい。
- 周りとは違うところがある子どもは、目をつけられて必要以上に叱られたり悪く見られたりすることがある。教室以外の居場所や他の選択肢、今の時代に順応した居場所が充実していくと良いし、それが自己肯定感にもつながる。子どもが持っている個性や性質を認めてあげる環境がもっと必要だと思う。
- 無料塾はとても良い取組だと思う。選択できる人だけが、多くの選択肢の中でより広い学びを得ることができるというのではなく、そういった環境にいない子どももいろんな知識や学びを得られる場があると良い。
- 町会活動の中で部屋が開いている場所を開放しており、子どもたちが集まってくる。そこで相談に乗ったりちょっと勉強を教えたりしている。そういった活動が幅を広げられると良い。
- 放課後の居場所については、子どもたちは「公園は制限が多すぎて遊べない」と言っている。公園に行っても球技などは制限がありできないので、講演でゲームをしたりしている。
- プレーパークで遊ぶ子どもは段違いに素敵な笑顔を見せている。

- 町会や子ども食堂、プレーパーク、コミュニティスクールなどを全部含めて一つにつなげることができれば素晴らしい。

相談・救済に関すること

- 中野区では様々な取組やサービスが行われており心強いが、それが求めている人につながっていないのでは非常にもったいない。つながる仕掛けができると良い。
- 相談できる人が全くおらず、どこにもつながることができていない子どもが一定数おり、心配である。選択肢を増やしてどこかに子どもがつながれると良い。

保護者に関すること

- 未就学児の保護者が集える場所がない。あっても場所が行きづらくていけないという話をよく聞く。
- たまたま中野に住んでいて子どもを産んだ方が多い。また、もともと中野に単身で住んでおり、家庭を持った後もそのまま区に住み続ける方が増えている。そうした中で、両親や頼れる人が近くにおらず、産後うつになってしまう方もいると聞いている。
- コロナ禍での在宅勤務により保護者が家にいる状況が増えたが、中野区は外で過ごせる場所が限られている。児童館も日曜日と月曜日は休館しており、いつでもどこでもいれる場所がないというのは課題である。

その他

- 条例第18条に「違法な薬物等の有害または危険な環境から子どもを守るよう取り組む」とあるが、これは昨年高校生への出前授業を行った際に、生徒達から「違法な薬物等が怖い」という意見が多く出されたことで反映された、子どもの生の意見である。
- 保育園の待機児童問題は解消されてきたが、逆に保育園が余ってしまうのも問題である。保育の質ガイドラインもあわせて、しっかりと子どもの権利を守る体制がとれると良い。
- 小中学校の統廃合により、それまでのつながりをつなぎ直す必要が出てしまうこともある。
- ジェンダーへの違和感を抱える子どもについては、LGBTQ などメディア等で取り上げられる機会も増えたことで、気づく年齢が低くなっているのではないか。気づく子どもも増えている実感があるので、それに合わせた環境整備も必要ではないか。
- 区内在学の子どもがどれだけ地域とつながっているのか。

2 見えてきた課題と検討の柱

(1)子どもの権利に関する理解促進

【課題】現状の広報周知のやり方(リーフレット等)では、子どもや保護者に伝えきれないことがある。

→子どもの権利の効果的な広報や普及啓発の手法について検討する。

(2)子どもの意見表明・参加の促進

【課題】様々な子どもに様々な手法で意見、考え、思いを聴く必要がある。

→子どもの意見を聴く場や仕組み、聴き方の手法について検討する。

(3)子どもの居場所、学びと活動の充実

【課題】家庭や学校以外の居場所や、幅広い学び・活動の場が必要である。

→ほっとできる居場所や、学び、遊び、活動できる環境整備について検討する。

(4)子どもの権利侵害の防止、相談・救済

【課題】どこにもつながることができていない子どもや、必要な支援につながっていない子どもや保護者がいる。

→子どもの権利侵害の防止や、安心して相談・救済を求めることができる体制整備について検討する。

(5)その他 子どもへの意見聴取

【課題】条例制定までの過程で声を聴けていない子どもがいる。

→推進計画に盛り込むべき事項を検討するにあたり、これまでの子どもへの意見聴取で聴けていない子どもに対して意見聴取を行う。(資料4参照。)